

先生の治療方針が世の中に認められて、
一日でも早く健康保険が通りますように。

「世間一般のメニエール病の解説は間違いです (難聴・メニエール病手記)」 K・S 52歳

2015年11月13日

これまでの経過

去年の10月に突然、背中の灼熱感とめまいを伴う嘔吐で動けなくなり、翌日には左耳に耳閉感を伴う難聴を発症しました。翌週、耳鼻科を受診すると、医師から「高濃度のプレドニン点滴の治療が必要なので、入院しないと治療が出来ない」と言われ、断ると聴力検査をされた後、他院への紹介状を持たされました。その足で自宅近くの個人病院に行くと、通院でプレドニンの点滴をしてくれる病院を紹介されました。

紹介された病院に行くと、突発性難聴と病名を告げられました。そして、プレドニンの点滴を一週間続け、イソバイド、メチコバル、ビタミン剤を内服するという治療を受けました。その時は、難聴が悪化しなかったため、私は完治したと思っていました。

ところが今年の8月末の明け方、同じ症状が再び出現し、再受診すると医師からメニエール病と診断されました。前回と同じ治療方法で、医師からは、「原因不明で完治が無い。めまいと嘔吐の発作も止めることが出来ない。申し訳ない・・・」と言われました。医師にそこまで言わせてしまい、私の方が申し訳なく思いました。

メニエール病について

ネット上であらゆる医師が、メニエール病には睡眠を十分とり、身体を休めるのが一番だと書いています。ところが私は、プレドニンの副作用で不眠になりました。不眠がストレスを誘発して、発作に繋がり、再度プレドニンの点滴です。「適度な運動をなささい」と言われても、発作の翌朝はめまいで動くこと

さえできないし、「気にするのが悪い」と言われても、いつ発作が起こるか分からないので無理です。おまけに「メニエール病になりやすい性格が神経質だ」とか、まるで自分の性格のために病気になっているかのように書かれていました。メニエール病の原因が不明なので、医師が病気を患者の責任に転嫁しているように思えて違和感がありました。そもそも最初の医師が、原因不明と言いながら入院しないと治療ができない程、高濃度のプレドニンを発作の度に使用して良いのか？は誰でも不思議に思います。

プレドニン（副腎皮質ホルモン）のこと

確かに高濃度のプレドニンを点滴すると、炎症反応は止めることが出来ます。でも副作用で不眠になり、不眠が発作を誘発し、再度プレドニンを使用する悪循環です。それでも私は、発作時にはプレドニンで治療しないと難聴が悪化すると思い込んでいました。

松本医院との出会い

兎に角このままプレドニンの対症療法では一生回復しない！！今まで病気になったことが無かったので、一日でも早く普段の自分を取り戻したい！！その一心で根本治療をして貰える病院をネットで探して、松本医院を知りました。松本医院のサイトでは、メニエール病の原因がヘルペスウイルスだと書かれていました。

初めての受診

9月6日の日曜日に松本医院を初めて受診しました。松本先生は初対面なのに、頭が良すぎるのか個性的でエネルギーがすごかったです。話すのが速くて、聞き取るだけで大変で、ビックリしました。（私は病気ですし、めまいが残っていてしんどかったですよ！）でも「（私が一番恐れていた）難聴にはならない」とハッキリと言われました。採血をして、アシクロビルと漢方薬の処方をして貰いましたが、帰宅後4日連続で発作があり、その度に嘔吐するので、回復の見通しが不安で、松本先生に電話をさせて頂きました。

漢方薬を煮出すのも初めてで、本来は乾燥させた薬草をとろ火で50分間煮出すのに、火を止めてうっかりそのままにしたので水分が吸収されてしまい、薬局に問い合わせをしました。

9月27日に2度目の受診をしました。松本先生から治療の効果が遅いこと

を指摘されました。原因は私が薬の量を勘違いで少なく服用していたからです。この時「お前は賢そうなのにアホか?!」と言いながら、持っていた電話の子機で私の頭をポカポカ叩かれました。普通なら考えられない暴挙です！しかし薬の効果が現れてないことを指摘されて、逆に私は松本先生を信用できました。

もし私が神経質な性格なら、こうまでされて3度目の受診はしないと思います。だからネット上で言われているメニエール病になりやすい性格があるというのは嘘です！！原因不明のままプレドニンの対症療法だけ施して、完治を考えない医師が患者の性格のせいにするのは本当に失礼で、患者の心まで傷つける病気の二次被害です！

10月11日、3回目の受診をしました。正確に内服薬を服用していたので、この2週間は軽い発作もありませんでした。左耳の耳閉感も難聴もなくなっていました。

患者として全ての医師に伝えたいこと

“突発性難聴の原因はヘルペス”説に意義を唱える医師もおられますが、炎症を抑えるプレドニンの対症療法には限界があり、長期で持続的に使用すると副作用が起こります。特に女性にとって、顔が大きく変形してしまうのはとても辛いことです。医師が、他人の治療（抗ヘルペス剤による治療）を批判する事は簡単です。しかし、批判をする前に、原因不明だからと炎症を抑えるプレドニンを使った対症療法をするのではなく、出来るだけ本来の病気を治す治療（原因を取り除くこと）を考えて頂きたいです。そのために治療方法を研究し、日々進化させて、薬も開発して頂きたいです。なぜなら日本の優秀な大学の医学部、薬学部は国民の健康を守る使命を担っているからです。そのための国立大学の筈ですよ？

松本先生は、ぶっきらぼうで我が道を行く個性的な人物なので、人によって相性があると思います。しかし、本来医師の仕事は、常に患者の病気（原因）と向き合い治すことです。私の身体が回復しているのが証明です。今後は先生の治療方針が世の中に認められて、一日でも早く突発性難聴やメニエール病に対する抗ヘルペス薬の投与が健康保険の適応となることを願います。

松本先生、有り難うございます。